

30P-am277

ラットにおけるシクロスポリン A 投与による血液流動性の低下

○山下 ひとみ¹, 寺田 央子¹, 日高 宗明¹, 坂田 晃¹, 鈴木 彰人¹, 平井 正巳¹
(¹九州保福大薬)

【目的】近年、免疫抑制剤であるシクロスポリン (CsA) の導入は、臓器移植の生着率や生存率の向上に著しく貢献している。一方、CsA による循環器障害や臓器障害等の副作用が関係する合併症などの問題も未だ残されている。これまでに我々は、ラットを用いた実験で CsA が血中トリグリセリド (TG) 値を上昇させることを明らかにしている。TG の高値は血液流動性に影響を及ぼすことから、我々は、CsA が血液流動性に及ぼす影響について検討した。

【方法】6 週齢の Wistar/ST 雄性ラット (日本 SLC) に、CsA (ネオーラル内用液 10%) を 20 mg/kg の濃度で 1 日 1 回 10 時に 14 日間連日経口投与した。血液流動性の測定は MC-FAN (日立原町電子工業) を用い、検体 100 μ L がマイクロチャンネルアレイ (Bloody7-7) を通過する時間を指標とした。また、COBAS INTEGRA 400 plus を用いて、血液生化学的検査を行った。

【結果および考察】CsA 投与ラット群は、コントロール群と比較して有意に血液通過時間が延長した。また、CsA 投与群は、コントロール群と比較して血中 TG 値が有意に上昇したが、体重には有意差がみられなかった。CsA 投与による脂質代謝異常は、血液流動性の低下を引き起こす可能性があることが示唆された。